



福島

「一度は訪ねてみたい」
二岐温泉仙峡の名旅館
平安時代開湯1000年の
歴史ある秘湯

大丸あすなる荘



豊かな自然に囲まれた玄関口

れている。
徳川時代から大丸屋として旅館を営み、昭和45年宿を新築した際に、高松宮様が「大丸あすなる荘」と命名された。第50代となる佐藤社長は、日本の原風景や心のふるさと「秘湯」を守る活動に奔走し、現在、「日本秘湯を守る会」の名誉会長を務める。

大丸あすなる荘(福島県岩瀬郡天栄村湯本字下二俣、佐藤好億社長、0248・84・2311、<http://www.daimarusunaru.com>)は、福島県南西部、二岐岳の中腹に位置する二岐温泉の宿である。プナの原生林が繁る仙峡の地、

平安中期安和の変で皇位継承に敗れた宮人が薬湯を求めて、河底に湧く現在の元湯自噴罅穴天然岩風呂を発見したという来歴が伝えら



二岐川の流れに手が届きそうな溪流露天風呂

この宿では、すぐ傍らを流れる二岐川など豊かな自然の眺望を楽しむ溪流露天風呂のほかに露天風呂を備えた大浴場、子供を授かりやすいpH値の湯とされる子宝露天風呂がある。すべて自然湧出の源泉である。

開湯1000年以上の歴史を誇る名湯は、江戸時代まで一般人の往来が禁じられ、大名階級しか利用できなかった隠し湯でもある。その由緒正しき風趣と手つかずの自然に囲まれた秘湯感、そして一流旅館に劣らぬ洗練された施設とサービス。三拍子そろった上質な湯宿で、存分におくつろぎいただきたい。